（様式第８号）

# 事業報告書（平成　２９年度）

事業名　地域を活かす農業と食の安全

団体名　おかやまエコマインドネットワーク　　担当者名　藤原　幸蔵

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時　平成３０年　３月１８日　１０：００～１２：３０

場所　岡山市立大元公民館

参加対象者　一般地域住民３２人
子ども　５人
講師及び地元講演者　５人
おかやまエコマインドネットワーク会員１０人
（託児　２人　託児スタッフ１人）
} 参加者計５２人

活動内容

１　農業生産法人ワッカファーム代表・佐々木竜也氏の講演

佐々木氏一家と就農を志す若者が耕作放棄地を開墾し無農薬完全露地栽培の野菜を生産して生計を立てている。これからの農業の新しい姿、無農薬野菜、種について講演を実施。

２　生ごみ堆肥箱を開発した山崎泰二氏の講演

耕作放棄地増や高齢者増を背景に市民農園が盛んになっている。そして、可燃ごみの 40%を占める生ごみをコストをかけて焼却するのでなく家庭で堆肥化し、農園に施肥して「食の循環」「ごみ減量」「Co2 排出減」を広める活動をしている山崎氏の講演を実施。

３　子ども達には、特別ワークショップとして、フェアトレードについて、岡山フェアトレードの会の方が、分かり易く説明後、チョコバナナを作成・試食。その後、デザート用のチョコバナナを作成

４　地元講演者による自家農業の話、給食製造現場の体験談。

子どもたちにフェアトレードのチョコバナナ造りの指導をした、フェアトレードの方によるフェアトレードについての講演。

５　ワッカファームで栽培した有機無農薬野菜及びもったいない食材（食品ロス対象品）を材料に、おかやまエコマインドネットワーク会員が作った料理を試食した。
子どもたちが作ったチョコバナナも試食した。

（様式第８号）

| ２．ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ |
| --- |
| ワッカファーム佐々木氏が実践する農業は在来種を使った有機無農薬栽培で、持続可能であり次代を担う子供達に安心できる食料を提供している。<br>また、山崎氏が推進する家庭生ごみの堆肥化は、食の循環・焼却ごみ減量・二酸化炭素排出減に貢献できる。<br>さらに、子どもたちのワークショップとしてフェアトレードの会の方の話は、ＥＳＤで重要とされている社会・経済・環境のバランスについての入門編となっている。<br>いずれもＥＳＤに直結している。 |
| ３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など） |
| 参加者アンケートの結果、次の意見、感想があった。<br>・農、種の話など循環する農業のお話し、興味深く聞かせていただきました。たい肥作ってみたくなりました。<br>・持続可能な農業をしていきたい。<br>・北長瀬にできる公園に菜園をつくります。市民の会が中心になってやろうとしています。教育や防災や食全てにつながる菜園です。興味のある方がいらっしゃったら、ご一緒につくっていただけませんか？<br>・空き缶等のリサイクルで空き容器園芸を試作中、自然環境保護から倉敷のツツジ山再生プロジェクトに参加中<br>・カカオの実におどろいた。あれがチョコレートになるなんてと思った。（子ども）<br><br>他にも多くの感想があった。参加者の意識の変化を感じるともに、自身の体験談などがふえてきていると思う。 |
| ４．今後の課題と展望 |
| 昨年、一昨年の同事業では開催公民館エリアに居住する会員が普段からの活動の中でこの事業への参加を呼びかけ、多くの参加があったが、今年度は当初予定していた東公民館が耐震工事のため開催できなくなり、会員のいない大元公民館エリアでの開催となったため、エリアの参加者が比較的少なかった。大元公民館には老人会、婦人会、クラブなどへの呼びかけの協力をいただき、大元小学校、大元幼稚園にもチラシを置かせてもらったが、地元小学校の参加が少なく、残念だった。<br>今後は子どもの参加を増やす工夫をすることで子どもへの啓発を進めるとともに、親子で参加することで子育て世代の参加を増やしていきたい。また、公民館で広がるような仕掛けつくりを考えていきたい。<br>事業の内容については「もっとたくさんの人の聞いてもらいたい」との声もあり、成功であったと思う。今後、食品ロスに関するイベントとの連携を強化し、同様のイベントをいろいろな地域で開催できればと考えている。更にステップアップし、ゼロ円マーケット等の展開も考えていきたい。 |